シラバス参照

タイトル「**2021年度スポーツ科学部(公開用_コロナ対策版)**」、フォルダ「**（共通）**」
シラバスの詳細は以下となります。

戻る

科目ナンバー	RMGT/SSCS1217		
科目名	日本を考える		
担当教員	清水　享		
対象学年	1年	開講学期	後期
曜日・時限	木３		
講義室	1501	単位区分	必
授業形態	演習	単位数	2
科目大分類	総合教育		
科目中分類	総合		
科目小分類	文化教養		
科目の位置付け（開発能力）	■ＤＰコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連【スポーツ科学部】共通 DP3-G〔状況把握力・判断力〕自らの置かれた状況、及び自己が帰属する集団の内外の状況を的確に把握し、適切に対応することができる。 DP7-L 〔協働力・牽引力〕　集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。 DP8-M 〔省察力〕　知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。 ■ＣＲコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（ＣＲ）との関連 G状況把握力・判断力（35%） L協働力・牽引力（25%） M省察力（40%）		
教員の実務経験			
成績ターゲット区分	■成績ターゲット　能力開発の目標ステージとの対応　２　進行期　～　３　発展期		
科目概要・キーワード	日本文化、日本の労働と格差のあり方、日本が直面している地球環境問題の現状、日本の家族のあり方から、日本の先端技術に至るまで、日本の歴史、文化を理解したうえで、日本の過去・現在そして未来を立体的に学修します。なお、授業を補完・代替するためオンライン授業（オンデマンド型・ライブ配信型）を取り入れます。開講曜日・時限に授業動画配信及び課題等を提示します。 ■キーワード: 日本文化、労働と格差、地球環境問題、家族、先端技術		
授業の趣旨	■副題 日本の歴史、文化を理解し、世界情勢を踏まえて未来を考える。 ■授業の目的 日本大学の「目的および使命」を踏まえ、「世界との対比、過去や未来を見据えながら、日本の歴史・文化・社会・精神・自然・環境などを理解し、日本人らしさや感性を踏まえて、自ら世界に”日本を発信することができる人材の育成」を目指します。 ■授業のポイント 動画教材の視聴やグループ討論を通じて、多角的視点による発想・価値観に触れることができます。各回、設定するトピックは、過去や未来、世界との対比を踏まえて、立体的に物事が捉えることができるように取り組んでいきます。		
総合到達目標	■異文化を尊重しつつ、日本の特質を理解して伝えたり、我が国が直面する社会問題の解決法を見出したりするために、グループ学修の場で、自らの考えを他者と述べ合い、課題を議論し合うことを通じて、コミュニケーション力や問題発見･解決力を修得する。		

	■自己を省察して自らの今後の学び方や生き方を自覚するために、多様な観点から日本を見つめ、国際社会など世界とのつながりを認識し、自己の立ち位置を理解する。
成績評価方法	成績評価は「自己学習シート３点×12回」、「チェックシート4点×6回」、「中間レポート課題10点」および「期末レポート課題30点」として行う。ただし、「自己学習シート」および「チェックシート」の合計点が30点以上、「中間レポート課題」および「期末レポート課題」の合計点が24点以上を合格とする。なお、評価対象は３分の２以上の出席者とする（10分を超える遅刻は3回を以て1回の欠席とする）。
履修条件	特にありません
履修上の注意点	特にありません
授業内容	

回	内容
1	①授業のテーマ 日本を考えよう ②授業概要 「日本を考えよう」の授業の内容とその意義について理解してもらうことを目的としている。具体的には、講義の目的と形式を理解し、グループワークを通じての意見の形成と自らの意見のとりまとめがこの授業の目標であることを理解してもらうことを目的としている(DP3-G)。 ③予習（60分） シラバスを熟読し、この科目の趣旨や目的、授業方法などを事前に理解する。また、『ミライヲツクル－LearningGuide』と日本大学の公式ホームページから「教育の目的」「日本大学教育憲章」を見ることで「日本大学マインド」を理解する。事前に学祖に関するリーフレット及び冊子を熟読し、自校史について理解を深める。 ④復習（120分） 授業で見た動画を再度視聴し、次回からの授業の流れを理解しておく。
2	①授業のテーマ 近代に向かう日本① ②授業概要 「近代に向かう日本」に関する講義を聞き、様々な学生と交流し、議論をすることを通じて、過去や未来、世界との対比を踏まえて、立体的に把握したうえで、自分の意見をまとめる(DP3-G、DP7-L、DP8-M)。 ③予習（120分） 動画を視聴し、その動画に現れた事象以外に明治時代になって変わったことを調べ、それらの事象に対して、自分は何を思い、どう評価するのかをまとめておく。 ④復習（120分） 授業で発表した内容を改めて振り返る。そのため、出された意見のなかに登場する事象をインターネット・辞典・紹介された参考文献などを通して調べ、「なぜ取り入れたのか」「なぜ消えたのか」などの事実を確実に理解できるようにする。
3	①授業のテーマ 近代に向かう日本② ②授業概要 「近代に向かう日本」に関する講義を聞き、様々な学生と交流し、議論をすることを通じて、過去や未来、世界との対比を踏まえて、立体的に把握したうえで、自分の意見をまとめる(DP3-G、DP7-L、DP8-M)。 ③予習（120分） 改めて視聴動画を見直し、事前資料を読み、「近代化」の代償に失った「アジア諸国との友好関係」について考える。200年にわたる、制限されたアジア諸国との関係を再編し、清国や李氏朝鮮と対列強同盟を締結することは可能だったかを、衰退していた清国を意識して学ぶ。 ④復習（120分） 授業で扱った事例について、さまざまな参考文献、インターネットなどを通して理解を深めていく
4	①授業のテーマ 日本文化の特徴を考える① ②授業概要 「日本文化の特徴を考える」に関する講義を聞き、様々な学生と交流し、議論をすることを通じて、過去や未来、世界との対比を踏まえて、立体的に把握したうえで、自分の意見をまとめる(DP3-G、DP7-L、DP8-M)。 ③予習（120分） 動画を視聴し、「自己学修シート３」を用いて、自分なりの意見をまとめておく。 ④復習（120分）

	授業で扱ったテーマについて、本、雑誌、インターネット等で各自確認してみたり、実際に体験してみたりする。
5	①授業のテーマ 日本文化の特徴を考える② ②授業概要 「日本文化の特徴を考える」に関する講義を聞き、様々な学生と交流し、議論をすることを通じて、過去や未来、世界との対比を踏まえて、立体的に把握したうえで、自分の意見をまとめる(DP3-G、DP7-L、DP8-M)。 ③予習（120分） 改めて視聴動画を見直し、「自己学修シート４」を作成する。さらに、グループで考えた最重要課題について、自分なりの新しい考えをまとめておく。 ④復習（120分） 授業でとりまとめた提案について、本、雑誌、インターネット等で各自確認したり、実際に体験したりする。
6	①授業のテーマ 日本の労働と格差のあり方① ②授業概要 「日本の労働と格差のあり方」に関する講義を聞き、様々な学生と交流し、議論をすることを通じて、過去や未来、世界との対比を踏まえて、立体的に把握したうえで、自分の意見をまとめる(DP3-G、DP7-L、DP8-M)。 ③予習（120分） 日本の労働と現代社会の格差の現状について「自己学修シート５」を用いてまとめる。 ④復習（120分） 授業を振り返り、様々な意見や考え方があることを理解する。
7	①授業のテーマ 日本の労働と格差のあり方② ②授業概要 「日本の労働と格差のあり方」に関する講義を聞き、様々な学生と交流し、議論をすることを通じて、過去や未来、世界との対比を踏まえて、立体的に把握したうえで、自分の意見をまとめる(DP3-G、DP7-L、DP8-M)。 ③予習（120分） 改めて視聴動画を見直し、「自己学修シート６」を作成する。さらに、前回の授業の際に、自グループで挙げられた最重要課題（日本の労働と格差をめぐる社会的課題）を、どのように解決するか考える。 ④復習（120分） 授業を振り返り、様々な意見や考え方があることを理解する。
8	①授業のテーマ 日本が直面している地球環境問題の現状① ②授業概要 「日本が直面している地球環境問題の現状」に関する講義を聞き、様々な学生と交流し、議論をすることを通じて、過去や未来、世界との対比を踏まえて、立体的に把握したうえで、自分の意見をまとめる(DP3-G、DP7-L、DP8-M)。 ③予習（120分） 動画を視聴し、地球環境問題の現状について、「自己学修シート７」を用いて、自分の意見や考えをまとめておく。 ④復習（120分） 授業で取りまとめた現状と課題について、ニュース、新聞、インターネット等で確認してみる。
9	①授業のテーマ 日本が直面している地球環境問題の現状② ②授業概要 「日本が直面している地球環境問題の現状」に関する講義を聞き、様々な学生と交流し、議論をすることを通じて、過去や未来、世界との対比を踏まえて、立体的に把握したうえで、自分の意見をまとめる(DP3-G、DP7-L、DP8-M)。 ③予習（120分） 改めて視聴動画を見直し、「自己学修シート８」を作成する。さらに、授業で取りまとめた現状と課題に基づき、自分達に実行可能な対策案ついて、自分の意見や考えをまとめておく。 ④復習（120分） 授業で取りまとめた現状と課題および自分達に実行可能な対策案について、ニュース、新聞、インターネット等で確認してみる。

10	①授業のテーマ 中間振り返り ②授業概要 学修してきた近代、日本文化、労働と格差、地球環境問題について、整理する(DP3-G、DP7-L、DP8-M)。 ③予習（120分） 中間レポ―ト課題作成に向けた考察をするために、「中間レポート準備シート」を用いて、ここまで学んできた４つのテーマ（ユニット）の中で、最も興味があったもの、さらに探求したいものを明確にし、まとめてくる。 ④復習（60分） 今まで、学修してきた近代（第２-３回）、日本文化（第４-５回）、労働と格差（第６-７回）、地球環境問題（第８-９回）の中で、特に興味のある分野について、より深く理解をするために、ニュース、新聞、インターネット等で関連する内容を確認し、改めて考える。
11	①授業のテーマ 日本の家族のあり方① ②授業概要 「日本の家族のあり方」に関する講義を聞き、様々な学生と交流し、議論をすることを通じて、過去や未来、世界との対比を踏まえて、立体的に把握したうえで、自分の意見をまとめる(DP3-G、DP7-L、DP8-M)。 ③予習（120分） 動画を視聴し、「自己学修シート９」を用いて、これまでの日本の家族のあり方が、現在、どのように変化しているかをまとめる。 ④復習（60分） 授業を振り返り、様々な意見や考え方があることを理解する。
12	①授業のテーマ 日本の家族のあり方② ②授業概要 「日本の家族のあり方」に関する講義を聞き、様々な学生と交流し、議論をすることを通じて、過去や未来、世界との対比を踏まえて、立体的に把握したうえで、自分の意見をまとめる(DP3-G、DP7-L、DP8-M)。 ③予習（120分） 改めて視聴影像を見直し、「自己学修シート10」を作成する。さらに、前回の授業の際に、グループで考えた最重要課題を、どのように解決するか考える。 ④復習（60分） 授業を振り返り、様々な意見や考え方があることを理解する。
13	①授業のテーマ 日本の最先端から考える未来① ②授業概要 「日本の最先端から考える未来」に関する講義を聞き、様々な学生と交流し、議論をすることを通じて、過去や未来、世界との対比を踏まえて、立体的に把握したうえで、自分の意見をまとめる(DP3-G、DP7-L、DP8-M)。 ③予習（120分） 動画を視聴し、「自己学修シート11」を用いて、そこで取り上げられているいくつかの分野の最新状況が、過去の事象とつながりがあることをしっかりと把握する。その中で自分がもっとも興味のある分野を選び、その事柄について、自分の身の回りで実際に感じる状況などとつき合わせて、そのことが現在の自分の生活、社会とどう関わっているかを考察する。 ④復習（150分） 身近なもので便利だったり、新しい流行だったり、それらの特色を考え、今回の授業を参考に、自分でなぜそれに興味があるかを考えてみる。さらにそれらを深めるために、書籍やWEBなどから自分で調査する。
14	①授業のテーマ 日本の最先端から考える未来② ②授業概要 「日本の最先端から考える未来近代に向かう日本」に関する講義を聞き、様々な学生と交流し、議論をすることを通じて、過去や未来、世界との対比を踏まえて、立体的に把握したうえで、自分の意見をまとめる(DP3-G、DP7-L、DP8-M)。 ③予習（120分） 改めて視聴動画を見直し、「自己学修シート12」を作成する。さらに、１回目の選んだ事柄（分野）についての最重要課題について、動画ではみえてこなかったことや問題点を、書籍やwebなどを駆使し、その事柄が未来へ展開した時の姿をイメージするために、自分で調査・分析をする。

		④復習（150分） 授業で取り組んだことを参考・きっかけにし、自分で興味があることの現状から、その未来の姿を考え、日本や世界にどう貢献するか、またはその中の自分の姿をシミュレーションしてみる。
	15	①授業のテーマ 自ら道をひらく（自己省察と総括） ②授業概要 「自ら道をひらく」に関する講義を聞き、一連の講義を踏まえて、自分の意見をまとめる(DP3-G、DP7-L、DP8-M)。 ③予習（180分） 期末レポート課題作成に向けた考察をするために、「期末レポート準備シート」を作成し、これまですべての授業を振り返り、これらの中から浮かび上がる日本の特質、日本人気質を考えてくる。 ④復習（120分） 期末レポ―ト課題の作成にあたって参考にした他者の意見や考えを整理し、この授業における学修成果を、今後の学びや自身の生き方にどう生かすのかをシミュレーションしてみる。

関連科目	
教科書	『ミライヲツクルLearningGuide』
参考書・参考ＵＲＬ	
連絡先・オフィスアワー	■連絡先：開催時に告知します。 ■オフィスアワー：各担当から開講時に指示します。メール等でアポイントメントを取ることにより、研究室等で対応します。
研究比率	

戻る

Copyright (c) 2016 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.